

研究開発／知的財産戦略

研究開発総経執行役員メッセージ



当社では、事業戦略のロードマップにおいて目指すべき分野として「電子・情報」「モビリティ」「環境・エネルギー」「ライフサイエンス」「農業・食品」を設定しており、この5分野に向けて新製品を開発してまいります。中期経営計画「SPEED 25/30」では、先端電子デバイス用材料や有機太陽電池材料、近赤外線色素材料、環境対応型の染料およびポリオール、バイオ医薬用材料、環境重視型の農業資材を具体的な事業領域として、2050年の社会を想定し、そこに向けて2030年がどのような姿になるかを見極めつつ、柔軟な発想で、研究・開発を進めてまいります。

常務執行役員 横山 紀昌

研究開発戦略

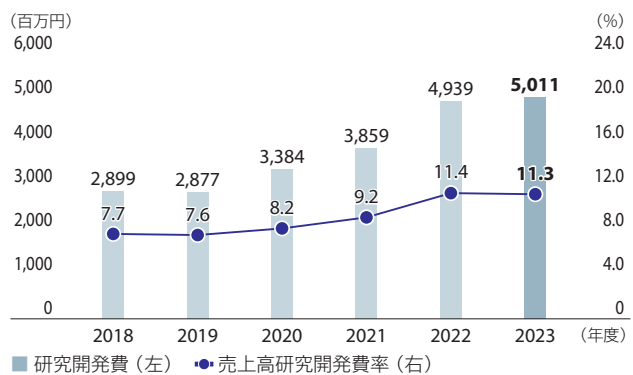
基本方針

10年間のシナリオ「2030年度のありたい姿」と、中間点としての「2025年度までの目指す姿」を策定いたしました。中間点の2025年度までは、有機ELなどの重要施策を実行し、現在の事業領域を維持・拡大いたします。さらに、その応用分野の探索を進めてまいります。その実現に向け、常に多様化する社会ニーズをいち早く捉え、さまざまなお客様の異なるニーズに即応できる研究・開発を進めてまいります。

保土谷化学グループは、長い歴史で培った技術から生まれたスキル・ノウハウを形にすることで、より新しい機能を備えた製品や製造技術を開発し、「スペシャリティ製品を軸としたオリジナリティにあふれるポートフォリオと環境に優しいモノづくりで、持続可能な社会の実現に貢

献する企業」の実現に向けた研究開発を行い、スペシャリティ製品の創出を通してイノベーションを促進し、SDGsの目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」の達成に寄与してまいります。

研究開発費



「SPEED 25/30」における基本戦略

戦略製品のさらなる発展と新規テーマの育成

- 機能性色素材料の新製品創出と発展
- 新規研究テーマの開発ステージへの進展・育成

研究開発体制の強化

- 新規研究テーマの持続的な創出活動を展開
- 研究から、量産化のスピーディーな実現を可能とする組織体制の整備

戦略製品のさらなる発展と新規テーマの育成

これまで100年以上の歴史の中で積み上げた技術を土台に、中期経営計画「SPEED 25/30」では、戦略製品の拡大と発展を目指してまいります。

次世代の新事業の創出に向けては、「新規テーマ探索プロジェクト」を中心に、「電子・情報」「モビリティ」「環境・エネルギー」「ライフサイエンス」「農業・食品」分野において、長期的視野に立った研究開発戦略の構築のために調査・探索し、顧客ニーズを営業・開発・製造が三位一体となって吸い上げ、その実現を目指してまいります。「電子・情報」分野では、有機ELやその応用の研究活動を強化し、応用分野への進出を目指し、「ライフサイ

エンス」では、韓国グループ会社のSFCを中心にバイオ分野の拡充を目指してまいります。

また、産官学との共同の枠組みも積極的に推進し、次世代の基盤技術の構築・新事業の創出を図っております。

事業戦略のロードマップ



研究開発体制の強化

保土谷化学グループは、国内から海外までグローバルな研究開発体制で、将来を担う最先端の研究開発を進めております。

国内拠点の筑波研究所を中心に、各工場の開発部および韓国のグループ会社のSFCやHODOGAYA CHEMICAL KOREAが連携して研究開発を推進し、顧客に密着した活動により、お客様の要望にもスピーディーな対応を図っております。

ペロブスカイト型太陽電池への取り組み

当社では、「次世代の基盤技術の構築・新事業の創出」に関わる例として、ペロブスカイト型太陽電池の研究開発に取り組んでおります。

ペロブスカイト型太陽電池は、従来の無機系シリコン型とは異なり、有機化合物を用いることで、軽量、柔軟かつ低コストという特徴があり、グリーントランスフォーメー

知的財産戦略

知的財産戦略の推進

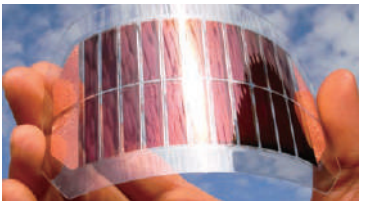
将来の事業ポートフォリオを考慮し、研究開発成果の迅速な出願と権利化を推進しております。情報検索、特許解析に基づくパテントマップの利用や知財教育等により、特許の質の向上にも注力しており、日経ビジネスの2023年知財経営ランキングでは特許価値成長ランキング

ション(GX)を推進する手段として、高い社会的ニーズが期待されています。

今後、ペロブスカイト型太陽電池の普及にむけ、さらなる高性能な材料の開発が不可欠となってきます。当社は、長年の色素材料に関わる研究開発を通じた高い有機合成技術やイメージング材料、有機EL材料で培った技術・ノウハウを応用し、このニーズに対応すべく、太陽電池用材料の研究開発を行っております。

また、自社だけでなくペロブスカイト型太陽電池の先駆的研究者である桐蔭横浜大学の宮坂力特任教授と共同研究を行い、知識・技術の融合と強化を図っております。

このような研究開発を通じて、「想定される2050年の社会」や「持続可能な社会の実現に貢献する企業」の実現を目指してまいります。



で30位を獲得しました。特に知財教育では、「権利化を念頭に置いて研究・開発を行うことが重要」との理念から、自社の事例をケーススタディーとして、最前線の研究員全員を対象に講座を開催しています。今後も、グローバルな事業展開への対応のため、国内外での確実な権利化を目指してまいります。

VOICE

新しい事業の「芽」を探す



新規テーマ探索プロジェクトでは、将来的に当社の新事業になるような、次世代の研究テーマの芽を見つけることを目標に研究を行っています。事業性や技術面などから、取り組んでいる探索テーマの位置づけを定期的に確認し、探索テーマを入れ替えながらさまざまな分野の研究を進めています。

今年度より、ペロブスカイト型太陽電池用材料が研究テーマとして採択され、本格的な研究開発ステージに進みました。担当していた研究がテーマアップされたことがとても嬉しく、当社の新事業へ発展していく研究に寄与できることにやりがいを感じています。

現在、新規テーマ探索プロジェクトでは、近赤外線吸収色素の研究に力を入れています。一日でも早く事業につながるよう、一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。

(新規テーマ探索PJ Y.S.)

関連するグループ会社: 保土谷コントラクトラボ株式会社

事業内容: 化学品の分析および研究開発業務受託

所在地: 〒305-0841 茨城県つくば市御幸が丘45番地

TEL 029-858-6886 (代表)

ホームページ: <http://www.h-contractlabo.co.jp/>

